



ほろいずみ ニュース No. 151

発行: えりも町郷土資料館ほろいずみ・水産の館 発行日: 令和2年3月3日
〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜207番地
TEL: 01466-2-2410 E-mail: erimomus@cocoa.ocn.ne.jp
<http://www.town.erimo.lg.jp/horoizumi/>

◆ 笛舞小学校出前授業・PTA研修会 ◆

2月7日(金)と20日(木)の2日間、
笛舞小学校図工(午前)及びPTA研
修会(夜)へ出前授業。陶芸体験を実
施。

7日、陶芸サークル「四季彩」の
安部昭子さんの指導で、星など型抜
きやコップ・お皿の形づくりを体験
しました。



お皿などの形づくりを行う参加者



型に粘土をつけてのコップづくり



児童たちの作品が、素敵に出来上がりました

形づくりを行った後は、郷土資料
館の館で、乾燥及び700℃で素焼き。

最終日は、作品を思い思いに釉薬
で色付けをしました。

釉薬が塗られた作品は、1,230℃
で本焼き。

素敵に出来あがった作品は、笛舞
小学校へ届けました。



出来上がった作品の一部

地名の由来 ～アベヤキ～

笛舞と大和の境にある川。諸文献はすべて「アベヤキ」と記しているが、原名ははっきりしていません。

アイヌ語でアベヤキならば「アペ・ヤキ」(Ape-yaki 火・蟬)といわれていますが、火の蟬とはどのような意味・ものを指すのでしょうか。

松浦武四郎は日誌に「往昔大なる火の如く光炎(こうえん→光かがやく炎)たる蟬が出しが故(ゆえ)に号く(ごうく→名づける)」と記しています。

また、永田地名解は「Apeyaki アベヤキ 赤蟬」と解していることから、「赤い蟬→エゾアカゼミ」という説もありますが、意識のしすぎではないか。とされています。



国道(扶桑橋)からのアベヤキ川(写真上)

河口から撮影したアベヤキ川(写真下)

啓蟄(けいちっ)(三月六日頃)

二十四節句の一つ、旧暦では二月であるが、新暦では三月の六日頃である。

木枯らしや霜の気配で冬眠していた小動物や虫たちが、春の到来を感じて土のトビラを開いて地上に出てくる頃、という意味である。

しかし、近年は農薬などの被害で、地虫(地中で生活する虫)もめっきり減っているらしい。

ミミズなどは、土の新陳代謝にひと役買っているのだから、畑からほとんど姿を消してしまった。

農薬と化学肥料漬けになった田畑は、本来の土の栄養を失いつつある。アメリカの一部では土が砂粒のようになり、雨が降るたびに表土が押し流され土地の“砂漠化”が進んでいる。

日本でも危機感が高まってきており、有機農業による農作物が市民権を得るようになった。

まだまだ主流ではないが、なんの抵抗手段も特にない地虫たちにとって、小さいながら朗報である。



参考:

『ビジュアル歳時記 日本の暦』

3/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館	臨時休館
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	4/1	2	3
水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
臨時休館	臨時休館	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○

3月〜4月の
開館カレンダー